

会報

国鉄闘争全国運動

国鉄分割・民営化反対！ 1047名解雇撤回！

第40号

2013年9月16日

国鉄分割・民営化に反対し 1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局  
千葉市中央区要町2-8 D.C.会館内  
TEL 043-222-7207  
nationwidemovement@yahoo.co.jp

# 9・25判決迎え撃ち 11・3労働者集会へ

1047名解雇撤回を求める9・15総決起集会とデモが1100人の結集で闘いとられた。「解雇撤回・JR復帰」を求める署名は4万3000筆におよび、国鉄分割・民営化に決着をつける新たな闘いのスタートとなった。

## 分割・民営化に決着つける

田中康宏（動労千葉委員長）

今日の集会を催した理由はただ一つ。1047名解雇撤回裁判に勝利することです。これまでに東京高裁に向けた署名運動を展開してきました。4万筆を超えました。本当に全国の取り組



めてもらう。JRは新しくつくる民間会社だから誰を採用しようが採用の自由だという。仮にこの過程で組合つぶしや不当労働行為が吹き荒れても、新会社には不当労働行為の責任は

切及ばない。こんなことが社会全体に適用されたら一体何が起きるのか。それから26年間、現実に起きたことを見て下さい。2千万人の労働者が権利を破壊されて非正規職に突き落とされた。その出発点が国鉄分割・民営化だった。だから僕らはこれと10年、20年、30年闘おうが、絶対にうち砕かなくては行けないと決意を固めたんです。

僕らの闘いはついに、最後のネジ一本を抜けば、この26年間権力がやってきたことのすべてが崩れ落ちるところまで核心に迫りました。われわれの力をこの一点に集中して、この26年間の民営化や非正規化のすべてが間違っていたことを敵に認めさせましょう。

われわれが暴き出した真実は、誰を不採用にして解雇するか、すべてJRの設立委員会と旧国鉄幹部、運輸省幹部まで加わって全部を詳細に決めていた、別法人どころか国もJRも

「国鉄はなくなるから全員やめてもらう。JRは新しくつくる民間会社だから誰を採用しようが採用の自由だ」という。仮にこの過程で組合つぶしや不当労働行為が吹き荒れても、新会社には不当労働行為の責任は

職場では新たな外注化の事前通知が行われています。民営化の次に来たのは鉄道業務のすべてをバラバラにして下請会社に突き落とし、安全も雇用も全部なぎ倒していく攻撃でした。だから民営化・外注化攻撃だけは絶対に許してはいけません。僕は絶対に闘い続けま

誰がやったのか。井手、葛西であり、当時の日経連会長であった斎藤英四郎であり、当時の運輸省幹部であった林です。全部特定しました。だから本来25日の判決は勝利判決であり、JRにわれわれが胸を張って戻る判決以外にはあり得ません。

最後にもう一点です。腹の底から怒りが煮えくりかえって許せないことがある。安倍政権の姿勢です。集団的自衛権の容認はクーデターの憲法解釈の転換です。戦争と改憲の道に突き進もうとする奴らを許していいんですか。福島の実態は、汚染水問題とか手を打つことができない現実にもかかわらず、安倍はなんと言ったのか。「すべてはコントロールされていて安全だ」

11月3日には日比谷野外音楽堂で3労組の呼びかけで全国労働者総決起集会を開催します。ここを時代の一つの転換点にしたい。それを実現するのは僕らの決意と行動です。決意と行動が鮮明ならば必ずできます。ともに闘いましょう。

### 全国に闘う労組つくる

かつて9月20日の裁判が延期になりました。なぜ延期になったのか。われわれの仲間たちは強制的に出向されているにもかかわらず、どんな委託契約のもとに強制出向に突き落とされたのか。団体交渉でもどんな場でもまったく当局は明らかにしていない。だから委託契約書を出せと裁判所に提出命令を求めました。しかし、裁判所はJRに対して委託契約書を出せと言わない。

最後にもう一点です。腹の底から怒りが煮えくりかえって許せないことがある。安倍政権の姿勢です。集団的自衛権の容認はクーデターの憲法解釈の転換です。戦争と改憲の道に突き進もうとする奴らを許していいんですか。福島の実態は、汚染水問題とか手を打つことができない現実にもかかわらず、安倍はなんと言ったのか。「すべてはコントロールされていて安全だ」

最後にもう一点です。腹の底から怒りが煮えくりかえって許せないことがある。安倍政権の姿勢です。集団的自衛権の容認はクーデターの憲法解釈の転換です。戦争と改憲の道に突き進もうとする奴らを許していいんですか。福島の実態は、汚染水問題とか手を打つことができない現実にもかかわらず、安倍はなんと言ったのか。「すべてはコントロールされていて安全だ」

### 11・3全国労働者総決起集会

日時 2013年11月3日(日) 正午  
場所 東京・日比谷野外音楽堂

今こそ闘う労働組合を全国の職場に！

的に組織拡大する以外にない。民営化・外注化は資本の本質的攻撃ですから、これを粉砕するには闘う労働組合を全国に拡大する以外に勝利の道はない。全力を尽くして組織拡大に立ち上がっています。全国のあらゆる産別の仲間達とともに闘って欲しいと思います。

### 11月集会を時代の転換点に

私たちが25日の判決がどうなるかが闘い続けます。国鉄分割・民営化には決着をつけ、安倍政権による国鉄分割・民営化を数倍する「民営化地獄」に社会をたたき込む攻撃を絶対に粉砕してやる、このことを通して闘う労働組合を甦らせましょう。

11月3日には日比谷野外音楽堂で3労組の呼びかけで全国労働者総決起集会を開催します。ここを時代の一つの転換点にしたい。それを実現するのは僕らの決意と行動です。決意と行動が鮮明ならば必ずできます。ともに闘いましょう。

# 1047名解雇撤回へ闘い続ける

## 今だから「闘う」

伊藤晃(全国運動呼びかけ人)

鉄建公団訴訟の控訴審が始まるに、裁判長が「まだやってるんですか」と聞いたという話がありました。私たちは「そうだ。まだやっている」と答えました。彼らは言うでしょう。「もう終わったことじゃないか」。私たちは「違う。われわれは問題のまった中にいる」と答えます。

国鉄分割・民営化というのは皆さんご承知のようにその後の労働者が投げ込まれている状況すべてにかかわる曲がり角でありました。労働運動に挑戦する資本側の「原則」が打ち出された出発点でありました。

原則とは何か。不当労働行為は資本にとって当然だ、資本の恣意的解雇は当然だ、と。その

結果、労働者に起きることに資本と国家はなんの責任もないのだ、と。

この原則は、資本主義という経済体制においては昔から当たり前のことです。しかし、その当たり前のことを当たり前だと言わせなかつた労働運動が、かつてありました。その力で資本の側は言いたくないことが言えなかつた。それを突破しようとしたのが分割・民営化だった。この闘いの最前線に1047名闘争が今もまだ続いている。

国鉄闘争全国運動をわれわれが出発させたのも1047名闘争をあきらめることが、いま進んでいる外注化・非正規職化への無抵抗につながるだろうと考えたからであります。私たちは1047名闘争と連帯すると同時に、全国の労働者の運動をつなげていく中心になりたい、と



うと考えて全国運動をつくりました。

私たちに託していま大切なのは、全国の労働者の仲間たちの内面における闘いだと思えます。残念ながら多くの労働者たちが外注化・非正規化の現実には仕方がないとあきらめてしまっています。これに対して私たちは「あきらめてはいけません。アベノミクスなんかウソなんだ」と。こういう声を労働者の内なる声にしていかなくてはならない。ウソはもう一つある。「闘ってもどうにもならないよ」とい

## 10・1計画業務の外注化を許すな!

### 組織拡大を実現する

山田護(動労千葉)

JRは10月1日、計画業務を外注化しようとしています。絶対阻止しなければなりません。9月12日から勤務明けの者に対して計画業務外注化に伴う出向の事前通知を強行しています。断固拒否して闘っています。



うこと。しかしこれもウソです。社会保険庁の分限免職の取り消しが続いています。労働者の内面に生まれつつあるものを感じ取らざるを得ない現実があるからだと思います。私たちはそれを強調しなければなりません。

私たちは攻撃をはね返すことができる、多くの行動を広くつなげていければね返せる。そういうわけで私たちは「まだやっている」と声を大にして訴えるのです。いまだからやっていると聞いた言いたい。全国の労働者全員が当事者であらうと思えます。全国の仲間と呼びかけ、力をひとつに結集させるためにこれからも全国運動はがんばります。

### 裁判官は許せない

高石正博(動労千葉争議団)

9月25日に判決が出るようになっていますが、高裁では「まだこんな闘争をやっていたのか」ということをいきなり裁判官が言った。こんなことを僕は絶対に許せません。こういう裁判官が出す判決ということこそ



### 署名で団結できた

中村仁(動労千葉争議団)

10万筆署名の取り組み本当にありがとございます。私たちがこの署名を通じて皆さんと団結できたことが勝利だと思っています。

動労千葉組合員は、外注化と闘ったり、駅に飛ばされながら4日、12日とストライキで闘い抜いてきました。デタラメな外注化の攻撃に怒りがこみ上げてきます。JRが言ってきたことは全部ウソです。エルダー社員の雇用の場の確保もウソだし、技術継承のために行われたい出向者がいるというのもウソでした。水戸鉄道サービス(MTS)が教育できると言っているが、水戸でも4名のプロパーをJRに逆出向させています。全部デタラメ。こんなことで誘導業務の外注化をやるといえるのか。

### 新組合員が加入

漆原芳郎(動労連帯高崎)

昨年の外注化で籠原では構内職場の全員が外注化で出向させられました。今年の10月1日には新たな外注化が提案されています。籠原で培ってきた運動をこれからも進めていきたいと思えます。籠原で闘っているのは私一人です。しかし、今回大きな飛躍がありました。高崎鉄道サービス(TTS)の労働者が動労連帯高崎に加入しました。今月1日付で会社にも通告しました。これからも闘いますのでよろしくお願ひします。

### 青年労働者の怒り

山田和広(動労西日本)

動労西日本は、今年秋季年末

も闘っています。分割・民営化との闘いをいまも続けている。このことに誇りを持ってこれからも闘っていきたく思います。外注化も絶対に粉砕して、解雇撤回もかちとって絶対JRに戻ります。

### 上告棄却弾劾!

小玉忠憲(国労秋田闘争団)

私の解雇撤回を求めた鉄道運輸機構訴訟に対して9月10日、最高裁判所は絶対許すことのできない上告棄却という決定を通知してきました。なぜ動労千葉や私を不採用にしたのか、ここに来てついに、誰がどこでどういつ風に不採用にしたのか、その経過がすべて明らかになりました。私は負けません。11・3労働者総決起集会に向かって国労を必ず甦らせませぬ。闘う組合につくりかえます。それがわれわれ国労闘争団の回答です。

いまだJRがどういう状況になつていのかを考えれば、分割・民営化が失敗したことは明らかじゃないですか。北海道を見て、貨物はJAL以上に再生不可能と言われています。これが分割・民営化のなれの果てです。これを私たちは絶対に許さない。一人の首切りも許さない。一人の首切りも許さない。一人の首切りも許さない。一人の首切りも許さない。

闘争として団体交渉を含め闘っていきます。動労西日本は、非正規職撤廃・外注化絶対反対という立場で、解雇撤回・契約社員制度撤廃を掲げてJR西日本と闘っています。尼崎事故の過程で病気に追い込まれた労働者に対して、会社は自己責任を押しつけて会社を辞めさせようということをいまだに続けています。それに対して裁判闘争を行っています。

解雇撤回・JR復帰を求める署名で外注会社の駅の労働者が「俺の人生を返して欲しい。もうJRの世話にはならない」と怒りをぶつけてきています。こうした青年の怒りを本場に組織して、この腐った社会のあり方、青年が使い捨てにされて、誇りも何もかも奪われていく状況をひっくり返す、この闘いの先頭に動労西日本は立ちます。

出向無効確認裁判もやっていますが、JRのデタラメな偽装請負の外注化が通用するわけはありません。なんのための外注化か、管理者はなんの仕事をするんだと当局を追及してありますが何も答えられません。そもそも当局は外注化はエルダー社員の雇用の場の確保と言いつつ外注化を始めました。しかし、CTSはプロパー社員を今年19名雇っています。当局にごまをすつた国労